

## 『河内のトリビア』 第32号『小深川工業地帯の変遷』

下小深川のISC第3リサイクルセンターがある場所は、143年前から多くの最先端の工場が操業されてきました。今回はその変遷について紹介します。

- ① 明治16年(1883年)7月～「広島綿糸紡績会社」がこの地での最初の工場を創業を開始、動力は水車であった。
  - ② 明治26年(1893年)～頭取海塚新八が、資本金20万円で「広島綿糸紡績株式会社」として操業を開始。
  - ③ 明治35年(1902年)～社長海塚新八が個人経営の「海塚紡績所」として操業を開始し、明治44年まで続いた。
  - ④ 大正3年(1914年)～「山積綿行株式会社」が動力を蒸気機関に変え、社宅や寮などを建設し盛況を極めていたが、大正11年に相場の暴騰により紡績工場を休業。
  - ⑤ 昭和7年(1932年)～「錦綿株式会社」が交渉し、昭和8年に、布団綿・着物綿の工場として操業を開始。
  - ⑥ 昭和19年(1944年)～戦争が始まると軍に接收され、軍需工場として防毒マスクが製造された。
  - ⑦ 昭和20年(1945年)～軍需工場として、「昭和金属株式会社」となり、防毒マスクなどを製造。戦後は、「広島製缶」から「新広島製缶」に名を変更し製缶関係を製造。昭和51年(1976年)に、「トヨタオート広島株式会社」が土地の一部を取得し、社宅と独身寮を建設。
  - ⑧ 昭和56年(1981年)～「岩崎大理石株式会社」が大理石加工工場として操業を開始したが、安価な大理石加工物が海外より入り倒産。
  - ⑨ 平成19年(2007年)～「株式会社ISC」が土地を取得し、平成22年7月より、リサイクルセンターとして環境に留意し操業を開始し現在に至る。
- 下小深川の広さ1万㎡余りの工業地帯には、この様に多くの工場の歴史があります。

紡績工場跡

